秋田県埋蔵文化財センター年報

37

平成30年度

秋田県埋蔵文化財センター

シンボルマークは、北秋田市白坂（しろざか）遺跡出土の
「岩偶」です。
縄文時代晩期初頭、1992年８月発見、高さ７㎝、凝灰岩。

序

平成30年度は、秋田県教育委員会が昭和49年に払田柵跡調査事務所を開設し、払田柵跡の学術的解明に着手してから45年に当たります。そこで、当センターでは、事務所開設以来御指導いただいている新野直吉先生をはじめ６名の講師をお迎えして『払田柵跡と秋田の古代世界』をテーマとした講演会を３回にわたって開催しました。

また、地域の歴史に親しみ、地域への誇りと愛着を深めていただく機会として、埋蔵文化財発掘調査報告会、企画展、出張展示、バスツアー、考古学セミナー、体験学習等の活用事業を継続して行いました。

発掘調査では、県・市連携文化施設整備事業に伴う久保田城跡発掘調査に総力を傾注して当たりました。調査班、中央調査班のほぼ全員が発掘現場に立ち、通常の発掘調査期間に加え、２月から３月末までの冬期も屋外で発掘を行う異例の調査でした。調査地は久保田城内の渋江氏屋敷跡で、土塁下の排水設備など多くの新知見を得ることができました。

さて、当センターの開設に深く携わり、平成２年度から６年間所長を務められた冨樫泰時先生が、平成30年度秋田県文化功労者表彰を受章されました。誠に喜ばしく、職員一同、心からお祝い申し上げます。

本年報は、平成30年度に当センターが実施した事業活動をまとめたものであります。御活用いただくとともに、当センターの事業に一層の御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成31年３月

秋田県埋蔵文化財センター
所　長　髙　橋　　学

目　次

Ⅰ　沿革 …… 1
Ⅱ　組織・施設 …… 1
　1　組織 …… 1
　2　施設の概要 …… 1
Ⅲ　平成30年度の歩み …… 2
Ⅳ　事業の概要 …… 4
　1　発掘調査 …… 4
　2　確認調査 …… 4
　3　埋蔵文化財発掘調査 …… 5
　（1）平成30年度県内発掘調査一覧表 …… 5
　（2）発掘調査概要
　　久保田城跡 …… 6
　4　刊行物 …… 7
　5　活用・普及事業
　（1）秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会 …… 9
　（2）セカンドスクール的利用 …… 10
　①利用状況 …… 10
　②活動の具体例 …… 10
　③職場体験・インターンシップ …… 10
　④出前授業 …… 10
　（3）企画展 …… 11
　（4）講演会 …… 12
　（5）あきた埋文考古学セミナー …… 13
　（6）あきた埋文出張展示 …… 14
　（7）小学校への出張展示 …… 16
　（8）古代発見！バスツアー …… 17
　（9）払田柵跡普及イベント …… 18
　①払田柵跡サタデーカフェ …… 18
　②払田柵跡で自然と歴史をしらべよう …… 18
　③払田柵跡Deスケッチ …… 18
　（10）オープンラボ …… 19
　①農業科学館まつり …… 19
　②払田柵跡古代体験フェス２０１８ …… 19
　③能代市子ども館考古学体験教室 …… 19
　④発掘調査報告会体験教室 …… 20
　（11）共催・機関連携等による普及事業 …… 20
　①彩夏仙北２０１８ …… 20
　②土器に生ける秋の草花展 …… 20
　③あきたスマートカレッジ …… 21
　④あきた県庁出前講座 …… 21
　（12）所蔵資料・古代体験キット・ビデオの貸し出し …… 22
　（13）センターの公開と展示 …… 22
　（14）図書整理・図書一般公開 …… 22
　（15）講演・研究論文等 …… 23
　6　運営協議会 …… 24
Ⅴ　平成30年度研修事業 …… 28
　1　研修受け入れ …… 28
　（1）職場体験 …… 28
　2　職員研修 …… 28
　（1）職員技術研修会 …… 28
　（2）所内研修会 …… 28
　（3）防災・避難訓練、交通安全講話 …… 29
Ⅵ　職員名簿 …… 30

Ⅰ　沿革

昭和55年２月	秋田県埋蔵文化財センター設立計画公表
昭和55年10月26日	建設工事開始
昭和56年８月31日	センター、第１収蔵庫完成
昭和56年10月１日	設置条例施行、職員発令、業務開始
昭和56年11月２日	落成記念式典挙行
平成５年１月	第２収蔵庫完成
平成10年４月２日	鷹巣町に秋田北分室開設
平成11年12月20日	秋田市に秋田整理室開設
平成12年４月４日	秋田整理室が秋田中央分室となる
平成13年４月２日	機構改革により南調査課、北調査課、中央調査課の３課体制となる
平成13年６月20日	秋田県甘粛省文化交流事業により交流員の相互交流開始
平成14年３月２日	秋田県埋蔵文化財センター設立20周年記念式典挙行
平成15年10月17日	秋田県甘粛省文化交流事業磨嘴子遺跡合同発掘調査開始
平成15年10月30日	センター屋根、外壁、内部大規模改修工事
平成17年４月１日	男鹿市に中央調査課男鹿整理収蔵室開設
平成20年３月31日	北調査課、中央調査課閉課
平成20年４月１日	機構改革により総務班、調査班、資料管理活用班、中央調査班の４班体制となる。
平成22年７月１日	秋田市に中央調査班移転
平成24年３月６日	秋田県埋蔵文化財センター設立30周年記念式典挙行
平成28年９月４日	秋田県埋蔵文化財センター設立35周年記念講演会開催

Ⅱ　組織・施設

1　組　織

2　施設の概要

本所（総務班・調査班・資料管理活用班）

所在地	〒014－0802　秋田県大仙市払田字牛嶋20		
	TEL　0187-69-3331　FAX　0187-69-3330		
	敷地面積		6,962.000㎡
	建物	鉄筋コンクリート造２階建	1,527.304㎡
	第１収蔵庫	鉄骨造平屋建	360.000㎡
	第２収蔵庫	鉄骨造平屋建	297.680㎡
	電気・ポンプ室	平屋建	59.780㎡

中央調査班

所在地	〒010－1621　秋田県秋田市新屋栗田町11－1		
	TEL　018-893-3901　FAX　018-893-3899		
	建物	鉄筋コンクリート造平屋建	2,141.000㎡

男鹿収蔵庫

所在地	〒010－0502　秋田県男鹿市船川港比詰字餅ヶ沢200		
	敷地面積		55,521.000㎡
	建物	鉄筋コンクリート造３階建	7,524.360㎡

Ⅲ　平成30年度の歩み

【平成30年】

4月2日　新任式（本所、中央調査班）
4月3日　臨時的任用職員、嘱託非常勤職員辞令交付式（本所、中央調査班）
4月6日　第1回連絡会、第1回全体職員会（本所）
4月8日　平成29年度秋田県内遺跡発掘調査成果展終了（県生涯学習センター、3／13～）
4月18日　平成30年度市町村文化財保護行政主管課長会議（県生涯学習センター）
4月25日　交通安全講話（本所）
4月26日　第1回所内研修会「印刷の仕組み」（三森印刷）、第2回所内研修会「編組品について」（本所）
4月27日　第2回連絡会、第1回本所職員会（本所）、第1回中央調査班職員会（中央調査班）
4月28日　第1回あきた埋文出張展示（大館郷土博物館、～6／24）
　　企画展「ザ・ミニコラム～埋文職員おすすめ　秋田の宝～」開幕（～H31.2／24）
4月29日　第2回あきた埋文出張展示（県立博物館、～6／22）
5月9日　第3回所内研修会「近世陶磁について」（本所）
5月10日　デジタル一眼レフカメラ運用実習（本所）
5月18日　デジタル一眼レフカメラ運用実習（中央調査班）
5月19日　第1回あきた埋文考古学セミナー（大館郷土博物館）
5月22日　第4回所内研修会「近世建築について」（天徳寺、如斯亭、旧黒澤家住宅）
5月23日　避難訓練・救命救急講習（本所）
5月25日　第3回連絡会、第2回本所職員会（本所）、第2回中央調査班職員会（中央調査班）
5月28日　秋田市向田表遺跡確認調査開始（～6／1）
5月29日　交通安全講話（中央調査班）
6月4日　久保田城跡発掘調査開始（～12／14）
6月14日　第1回運営協議会（本所）
6月16日　あきたスマートカレッジ「仙北地域の歴史－払田柵ができる前／できた後－」（県生涯学習センター）
6月17日　講演会「払田柵跡と秋田の古代世界」①（県立博物館）
6月19日　片貝家ノ下遺跡レーダー探査（～6／20）
6月29日　第4回連絡会、第3回本所職員会（本所）
7月6日　能代市高塚遺跡確認調査（～7／9）
7月7日　第3回あきた埋文出張展示（県立図書館、～8／15）、払田柵跡サタデーカフェ①
7月8日　農業科学館まつり（農業科学館やすらぎ広場）
7月17日　にかほ市神田遺跡確認調査（～7／31）
7月21日　第2回あきた埋文考古学セミナー（県立図書館）、払田柵跡で自然と歴史をしらべよう①
7月27日　第5回連絡会、第2回全体職員会（本所）
　　第1回職員技術研修会（払田柵跡第152次調査現場）

8月3日　払田柵跡古代体験フェス２０１８（主催：大仙市教育委員会）
8月8日　払田柵跡で自然と歴史をしらべよう②
8月10日　第５回所内研修会「レプリカ法について」（中央調査班）
8月15日　彩夏せんぼく２０１８（払田柵跡、特別展示室）
8月24日　第６回連絡会、第４回本所職員会（本所）、第３回中央調査班職員会（中央調査班）
8月31日　消防設備等点検（本所）
9月1日　払田柵跡サタデーカフェ②
9月20日　全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会北海道・東北ブロック会議（青森市）
9月25日　湯沢市赤塚遺跡確認調査（～10／4）
9月28日　第７回連絡会・第５回本所職員会（本所）
10月2日　古代発見！バスツアー 第１回「世界遺産を目指す遺跡を巡る」
10月5日　古代発見！バスツアー 第２回「世界遺産を目指す遺跡を巡る」
10月6日　土器に生ける秋の草花展（農業科学館、～10／21）
10月8日　払田柵跡Deスケッチ
10月13日　払田柵跡サタデーカフェ③
10月18日　第４回あきた埋文出張展示（第１会場）（能代市立図書館、～11／18）
10月20日　講演会「払田柵跡と秋田の古代世界」②（大仙市さくまろ館）
10月25日　第４回あきた埋文出張展示（第２会場）（能代市子ども館、～11／18）
10月26日　第８回連絡会、第６回本所職員会（本所）、第４回中央調査班職員会（中央調査班）
10月27日　能代出張展示考古学体験①（能代市子ども館、～10／28）
11月10日　能代出張展示考古学体験②（能代市子ども館、～11／11）、払田柵跡サタデーカフェ④
11月18日　講演会「払田柵跡と秋田の古代世界」③（美郷町中央ふれあい館）
11月22日　第９回連絡会、第７回本所職員会（本所）、第５回中央調査班職員会（中央調査班）
11月29日　交通安全講話（本所）
12月21日　第10回連絡会、第８回本所職員会（本所）、第６回中央調査班職員会（中央調査班）

【平成31年】

1月23日　交通安全講話（中央調査班）
1月25日　第11回連絡会、第９回本所職員会（本所）、第７回中央調査班職員会（中央調査班）
2月5日　第２回運営協議会（本所）
2月22日　第12回連絡会、第10回本所職員会（本所）、第８回中央調査班職員会（中央調査班）
3月2日　第５回あきた埋文出張展示（能代市立能代図書館、～3／24）
3月9日　平成30年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会（県生涯学習センター）
3月12日　平成30年度秋田県内遺跡発掘調査成果展開幕（県生涯学習センター、～4／7）
3月15日　平成30年度市町村埋蔵文化財担当職員連絡会（県秋田地方総合庁舎）
3月22日　第13回連絡会、第３回全体職員会（本所）、職員講習会
3月29日　離任式（本所、中央調査班）

Ⅳ　事業の概要

1　発掘調査

	遺跡名・所在地	事業名・〔事業機関〕	調査期間	調査担当者
1	久保田城跡 （秋田市）	県・市連携文化施設整備事業 〔県観光文化スポーツ部〕	6月4日～ 12月14日 平成31年 2月14日～ 3月31日	宇田川浩一 村上　義直 武内　真之 山村　剛 利部　修 乙戸　崇 赤星　純平 巴　亜子

2　確認調査

	遺跡名・所在地	事業名・〔事業機関〕	調査期間	調査担当者
1	向田表遺跡 （秋田市）	地方道路整備工事(建設)主要地方道 秋田雄和本荘線(相川工区) 〔県建設部〕	5月28日～ 6月1日	巴　亜子 小山　美紀 森谷　康平
2	片貝家ノ下遺跡 （大館市）	大館工業団地開発事業 〔県産業労働部〕	6月19日～ 6月20日	村上　義直
3	高塙遺跡 （能代市）	一般国道7号能代地区事故対策事業 〔国土交通省能代河川国道事務所〕	7月6日・ 7月9日	巴　亜子 小山　美紀 森谷　康平
4	神田遺跡 （にかほ市）	国道7号遊佐象潟道路事業 〔国土交通省秋田河川国道事務所〕	7月17日～ 7月31日	巴　亜子 小山　美紀 森谷　康平
5	赤塚遺跡 （湯沢市）	国道13号横堀道路改築事業 〔国土交通省湯沢河川国道事務所〕	9月25日～ 10月4日	巴　亜子 小山　美紀 森谷　康平

3　埋蔵文化財発掘調査

（1）平成30年度県内発掘調査遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積（㎡）	調査主体者	事業名等	主な時代：性格
1	大館城跡	大館市字中城	4/13～11/29	1,058	大館市教育委員会	大館市本庁舎建設事業	近世：城館跡
2	真館Ⅲ遺跡	大館市比内町新館字真館	8/28～9/27	130	大館市教育委員会	福祉施設敷地造成	縄文：集落跡
3	史跡檜山安東氏城館跡（檜山城跡）	能代市檜山字古城、大間木	6/11～10/16	90	能代市教育委員会	史跡内容確認	中世：城館跡
4	上新城中学校遺跡	秋田市上新城五十丁字小林	8/1～8/8	24	国際教養大学	遺跡内容確認	縄文：散布地
5	史跡秋田城跡（第111次）	秋田市寺内焼山	5/9～9/27	500	秋田市	史跡内容確認	奈良・平安：城柵官衙跡
6	**久保田城跡**	秋田市千秋明徳町	6/4～12/14 2/14～3/31	12,100	秋田県教育委員会	県・市連携文化施設整備事業	縄文・平安・近世・近代：散布地・城館跡
7	久保田城跡	秋田市千秋矢留町	6/18～11/14	1,272	秋田市	秋田和洋女子高等学校校舎建設	近世・近代：城館跡
8	新谷地西遺跡	由利本荘市上谷字新谷地	5/9～5/23 10/12～10/17	124	由理柵・駅家研究会	由理柵・駅家関連遺跡確認調査	奈良・平安：散布地
9	史跡払田柵跡（第152次）	大仙市払田字仲谷地	6/4～8/31	168	秋田県教育委員会	史跡内容確認	平安：城柵官衙跡
10	鶴田Ⅰ遺跡	美郷町安城寺字鶴田	6/1～7/31	270	美郷町教育委員会	ほ場整備事業	平安：集落跡
11	鶴田Ⅱ遺跡	美郷町安城寺字鶴田	6/1～7/31	150	美郷町教育委員会	ほ場整備事業	平安：集落跡
12	諏古町遺跡	美郷町安城寺字諏古町	6/1～7/31	120	美郷町教育委員会	ほ場整備事業	平安：散布地
13	鐙ヶ崎城跡	美郷町六郷東根字北鐙ヶ崎	9/1～11/7	98	美郷町教育委員会	遺跡内容確認	中世：城館跡
14	金沢城跡（第103次）	横手市金沢中野字権五郎塚	10/9～11/28	161	横手市教育委員会	後三年合戦関連遺跡調査	平安・中世：城館跡
15	館尻遺跡	横手市平鹿町上吉田字館尻	5/9～10/2	6,600	横手市教育委員会	ほ場整備事業	平安・中世：集落跡
16	堀ノ内遺跡	横手市大屋寺内字堀ノ内	5/7～8/10	1,800	横手市教育委員会	ほ場整備事業	縄文：集落跡
17	上掃遺跡	東成瀬村田子内字笹生田掃・字上掃	7/10～10/31	113	東成瀬村教育委員会	縄文ロマン事業	縄文：集落跡

*太文字は掲載遺跡

（2）発掘調査概要

久保田城跡（くぼたじょうあと）

【調査要項】

所在地	秋田県秋田市千秋明徳町２－52
調査期間	平成30年６月18日～12月14日、平成31年２月14日～３月31日
調査面積	12,100㎡（調査終了面積は1,600㎡）
遺跡の時代	縄文時代、平安時代、江戸時代、近代
遺跡の性格	散布地(縄文時代）、集落跡(平安時代)、城館跡(江戸時代)
事業関係機関	秋田県観光文化スポーツ部、秋田市観光文化スポーツ部
調査担当	宇田川浩一、村上義直、武内真之、山村剛、利部修、乙戸崇、赤星純平、巴亜子、安田創、森谷康平

【調査概要】

検出遺構						主な出土遺物	
江戸時代	土塁	１基	溝跡	20条		縄文時代	土器、石器剥片
	掘立柱建物跡	４棟	配石遺構	４基		平安時代	土師器、須恵器
	竪穴建物跡	２棟	道路跡	１条		江戸時代	陶磁器、漆器、
	竪穴状遺構	３基	井戸跡	５基			卒塔婆、木製品、
	柱列跡	６条	柱穴様ピット	115基			硯、砥石、鉄滓
	焼土遺構	３基					

久保田城は、ＪＲ秋田駅から北西500m、標高11～38mの千秋公園台地に立地し、本丸、二の丸、三の丸、北の丸及び周囲を巡る堀等からなる、江戸時代の秋田藩主佐竹氏の居城である。

このたび、三の丸の一角を占める県民会館とジョイナスが解体され、新文化施設が当地に建設されることになり、事前発掘調査を実施している。今年度の調査は、ジョイナス建物土間下の約5,000㎡に着手し、内1,600㎡を終了した。調査区北端は、東海林太郎記念公園跡地及び隣接地である。この区域は、文献史料によれば城主佐竹氏の家臣渋江氏の居館があったとされる場所で、屋敷地の北端、東西両辺を調査したことになる。

調査の結果、地表下には、近代のレンガ造りの門柱基礎とそれに伴うレンガ敷きがあり、その下から、江戸時代の竪穴状遺構が検出された。

調査区西辺には、渋江屋敷と渋江家下屋敷(現和洋女子高校敷地)との境界を区画する長さ約140m、上幅1.0～1.1m、下幅５～８m、高さ2.4～4.2mの土塁が南北方向に設置されている。土塁が屈曲する北西部の佐竹小路に面する地点では、地下に凝灰岩製の排水溝を設置して、敷地の内側から外側へ排水する仕掛けが施されている。

調査区西側中央付近では、長さ５m、幅2.7m、深さ2.5mの長方形の掘り方の底部に、径90cmの木桶を枠に利用した大型の井戸をはじめ、４基の井戸が集中している。

調査区東辺では、現在の中土橋通りに面する斜面の北半分を調査した。この斜面は屋敷地造成により形成されたもので、その地下には、旧地表を溝状に掘り窪めてこぶし大の礫を充填した暗渠が南北方向に敷設されていた。また、屋敷地造成と同時に中土橋通りの造成も行われ、細かい版築によって

道路面のかさ上げがされていた。

ジョイナス建物土間下は、現地表から1.5mの深さにある江戸時代以前の旧地表土（平安時代の黒色土層）上面までを調査した。「梵字（キャ・カ・ラ）」、「為開翁宗□（鉄カ）□」の墨書のある卒塔婆をはじめ、様々な木製品が出土した。「宗鉄」は、渋江家３代当主光久の法名である可能性が高い。

北西部隅の土壙（南東から）

西辺土壙断面（北から）

土壙下検出排水溝（南から）

4　刊行物

遺跡名	トクラ遺跡	発掘調査年	27・28年度	発行年月	31年３月
書　名	秋田県文化財調査報告書第513集 トクラ遺跡　―成瀬ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書―				
内　容	遺跡の時代	縄文時代　弥生時代　奈良時代			
	遺跡の性格	遺物包含地　キャンプサイト			
	検出遺構	縄文時代：石器集中区１か所、掘立柱建物跡２棟、石囲炉１基、焼土遺構１基、地床炉３基、配石遺構１基、土坑15基、溝跡２条、柱穴様ピット４基 弥生時代：土坑２基			
	出土遺物	縄文時代：縄文土器(早期～晩期)、石器(石鏃・石匙・石槍・トランシェ様石器・筌状石器・石錐・石錘・敲磨器類)、石製品(石刀・石棒・石冠・有孔石製品) 弥生時代：弥生土器(前期) 奈良時代：土師器(赤彩高坏・坏・甕)			

遺跡名	堤沢山遺跡	発掘調査年	28・29年度	発行年月	31年３月
書　名	秋田県文化財調査報告書第514集 堤沢山遺跡　―日本海沿岸自動車道(本荘～岩城)付加車線工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ―				
内　容	遺跡の時代	中世			
	遺跡の性格	生産遺跡			
	検出遺構	中世：鍛冶炉１基、炭窯１基、焼土遺構１基、排滓場２か所、 粘土採掘坑４基、溝跡１条、土坑４基、柱穴様ピット９基			
	出土遺物	炉壁、羽口、鋳型、鉄滓			

書　名	秋田県文化財調査報告書第515集 遺跡詳細分布調査報告書	調査年	30年度	発行年月	31年３月
内　容	平成30年度に実施した遺跡分布調査と遺跡確認調査の報告。				

書　名	秋田県埋蔵文化財センター研究紀要　第33号	発行年月	31年３月
内　容	中村由克　「秋田県湯沢市堀ノ内遺跡における縄文時代の石器石材」 巴　亜子　「大館市片貝遺跡における平安時代の集落について」 小山美紀　「古川堀反町遺跡の瀬戸・美濃窯製品」 渡部育子　「律令国家地方行政機構のなかでみる払田柵跡」 安田　創　「秋田県内出土の土器底部圧痕資料(予察)」 冨樫那美　「秋田県域における縄文時代の墓制－県南域の墓の集成(１)補遺－」		

書　名	秋田県埋蔵文化財センター年報36(平成29年度)	発行年月	30年６月
内　容	秋田県埋蔵文化財センターの平成29年度の歩みを総括し、Ⅰ沿革、Ⅱ組織・施設、Ⅲ平成29年度の歩み、Ⅳ事業の概要、Ⅴ研修事業などを記載。事業の概要では、平成29年度発掘調査した２遺跡の発掘調査概要、活用・普及事業の実績を掲載。		

書　名	ザ・ミニコラム　－埋文職員おすすめ　秋田の宝－	発行年月	30年７月
内　容	平成30年４月から平成31年２月まで開催の秋田県埋蔵文化財センター平成30年度企画展の展示解説パンフレット。ホームページで紹介されていた職員おすすめの遺物を中心に紹介。Ａ４判カラー８頁。		

書　名	平成30年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料	発行年月	31年３月
内　容	平成31年３月９日に秋田市で開催した、平成30年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会の配付資料。平成30年度に県内で発掘調査された遺跡のうち、主要なものの発掘調査成果について、カラー写真と平易な文章で紹介。県内発掘調査遺跡一覧表と遺跡位置図、年表も掲載。Ａ４判カラー24頁。		

5　活用・普及事業

当センターでは、発掘調査成果をはじめ多くの文化財を活用して、秋田の歴史、地域の歴史を県民に発信するために、資料の公開・活用・普及事業を積極的に推進している。今年度も企画展、講演会、バスツアー、セミナー等の各種事業を展開した。

（1）秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会

秋田県教育委員会及び市町村教育委員会等が実施した発掘調査の成果を広く県民に公開し、埋蔵文化財保護について理解を深めてもらうことを目的に、昭和56年度から発掘調査報告会を開催している。

今年度は平成31年３月９日(土)、秋田県生涯学習センターを会場に開催し、９遺跡の報告、12遺跡の出土品や写真パネル等の展示を行った。参加者は296名で、熱心に報告を聞いたり、報告内容について質問をする姿が見られた。入口ホールに展示した久保田城跡の実物大土塁断面写真の前や地下展示会場では、写真や遺物を興味深げに眺め、担当者の解説に耳を傾けていた。

また、同時開催したオープンラボ(体験教室)でも、縄文文様コースター作りや粘土細工による縄文クラフトなど、各種体験に延べ147名が参加し、盛況だった。

報告や展示にあたっては、各市町村教育委員会から、運営や準備等にあたっては、県生涯学習センターから協力をいただいた。

【報告内容】　会場での報告に加え、出土品、写真パネル等も展示した。

1	平成30年度県内発掘調査の概要	主任文化財専門員(兼)調査班長　五十嵐一治
2	大館城跡〈大館市〉	大館市教育委員会　馬庭和也氏
3	久保田城跡(渋江屋敷跡)〈秋田市〉	中央調査班副主幹　宇田川浩一
4	史跡檜山安東氏城館跡〈能代市〉	能代市教育委員会　播摩芳紀氏
5	館尻遺跡〈横手市〉	横手市教育委員会　島田祐悦氏
6	金沢城跡〈横手市〉	横手市教育委員会　島田祐悦氏
7	片貝家ノ下遺跡〈大館市〉	中央調査班副主幹　村上義直
8	史跡払田柵跡〈大仙市・美郷町〉	県教育庁払田柵跡調査事務所(兼)文化財主事　安田創
9	史跡秋田城跡〈秋田市〉	秋田市立秋田城跡歴史資料館　佐藤桃子氏

【展示遺跡】※上記の報告、展示に加え、次の３遺跡の出土品、写真パネル等も展示した。

久保田城跡(内堀跡)(秋田市)、鐙ヶ崎城跡〈美郷町〉、上新城中学校遺跡〈秋田市〉

なお、会場となった秋田県生涯学習センターでは、「平成30年度秋田県内遺跡発掘調査成果展」を３月12日(火)から４月７日(日)まで１階玄関ホールにて開催し、今回の報告会で使用した遺跡の写真や遺構配置図等を展示した。

報告会場の様子

展示・体験会場の様子

（2）セカンドスクール的利用

セカンドスクールの利用は、県生涯学習課が推進する事業で、教育施設等の人的・物的機能を十分に活用し、学校と教育施設等が一体となって、郷土の自然や文化との触れ合い体験、共同生活体験、各教科や総合的な学習の時間等の取組を複合的に実施する利用方法である。当センターでは、考古資料に様々な形で触れることで社会科、総合的な学習等をサポートしている。近年は、来所しての利用に加え、職員が学校に資料等を持参して行う出前授業が増えている。

①利用状況

学校	小学校	中学校	高等学校	その他	合　計
利用件数	27 件	10 件	7 件	0 件	44 件
利用人数	883 名	246 名	56 名	0 名	1,185 名

②活動の具体例

・縄文土器や石器に触れて用途などを学ぶ体験
・大昔の人々の知恵に学ぶ「石器づくり」、「土偶づくり」
・特別展示室や整理作業室、収蔵庫の見学
・地域の遺跡や文化財の学習を支援する「授業サポート」
・発掘現場の見学

秋田和洋女子高校発掘現場の見学

③職場体験・インターンシップ

平成18年度からセカンドスクール的利用の一環として職場体験やインターンシップの受け入れを始め、今年度は、小学校１件６名、高等学校４件33名の利用があった。

当センターで実施している発掘調査や整理作業を見学・体験することによって、職業に対する関心を高め、考古学や文化財保護の業務に関する理解を深めることを目的として行っている。

大曲工業高校インターンシップ

④出前授業

今年度の出前授業は小学校11件、中学校10件であった。出前授業は、当センターで行っている「土器や石器に触れて用途などを学ぶ体験」と「地元の発掘調査成果に基づいた遺跡や出土品の展示・説明」を組み合わせた授業を基本とし、縄文時代を中心に古代から中世にかけての地域の歴史を扱った。出土品を実際に手に取り、地元にも多数の遺跡があることを知ってもらうことによって、児童・生徒が、地域の歴史や文化財への興味・関心を深め、その後の歴史学習に対する意欲が高まることを目的としている。

桜小学校４～６年生

醍醐小学校６年生

八郎潟中学校２～３年生

（３）企画展

企画展は、毎年特別展示室を会場として、設定テーマに基づき当センターの収蔵資料を中心とした展示品で構成し開催している。今年度は、「ザ・ミニコラム～埋文職員おすすめ　秋田の宝～」と題して、平成19年度から本センターホームページにおいて、10年間に約130回が掲載されたミニコラムの中から30余を選りすぐり、その中で紹介されている遺物と共に展示した。会期は４月28日から２月24日までであった。

展示は時代順に並べ、縄文時代は、県内最古の土器として知られる横手市の岩瀬遺跡の土器、県内最古の漆器が出土した池内遺跡、３Ｄプリンターで再現した漆下遺跡の土製品レプリカ、土器の復元・補修方法を紹介したトクラ遺跡の注口土器等を展示した。弥生時代は、籾圧痕が残る三種町の大曲家の上遺跡の土器底部などを展示した。平安時代は、官道が見つかった清水尻Ⅱ遺跡の馬の歯、払田柵跡の絵馬等を紹介し、中世の製鉄遺跡である堂の下遺跡の鉄鍋の鋳型、江戸時代は、久保田城跡の堀から見つかった刀を展示した。９月には一部展示替えを行い、旧石器時代のナウマン象の歯のほか、縄文時代のおしゃれをテーマに戸平川遺跡の漆塗りの櫛や松木台Ⅲ遺跡の靴形土製品等を追加展示した。あわせて、発掘調査で使い込まれてすり減った移植ゴテを手に取ってもらうコーナーも設置した。

バラエティに富んだわかりやすい内容としたため、見学者からは好評だった。期間中の見学者は、1,839名であった。

展示の様子

展示の様子

（４）講演会

今年度は、県教育庁払田柵跡調査事務所設立45年の節目に当たり「払田柵跡と秋田の古代世界」をテーマとして、３回にわたって講演会を開催した。演題・講師は次のとおりである。

第１回　６月17日（日）　会場：秋田県立博物館　　参加者：101名

「わたしの古代史研究と払田柵」　　秋田大学名誉教授　新野直吉氏

「律令国家地方行政機構のなかでみる払田柵跡」秋田大学名誉教授　渡部育子氏

新野氏は、払田柵跡調査事務所設立前史を中心に、これまでの自身の古代史研究を振り返りながら、近年の調査成果の意義と払田柵跡の価値を説いた。

渡部氏は律令国家の視点から東北地方の城柵と払田柵跡の役割について、特に昨年度出土した第７号漆紙文書などの新知見もあわせて、文献史学の立場から考古学的成果を援用しながら議論を展開した。

講演後は払田柵跡調査事務所職員が県立博物館ロビーで開催している出張展示「ほってわかった、払田柵跡45年」の展示解説を行った。

講演中の新野氏

第２回　10月20日（土）　会場：大仙市さくまろ館　　参加者：124名

「出土文字資料から読み解く払田柵跡と秋田の古代」国立歴史民俗博物館　教授　三上喜孝氏

三上氏は、出土文字資料の解読のしかたや分析法を平易に解説しながら、払田柵跡や秋田城跡などから出土した文字資料を中心に、第７号漆紙文書の新知見もあわせて、どこまで秋田の古代史を描き出せるか考察した。

メイン会場の収容人数を参加者数が大幅に上回ったため、サブ会場を隣室に設けて画像と音声を送る試みを実施した。

講演中の三上氏

第３回　11月18日（日）　会場：美郷町中央ふれあい館　参加者：56名

「古代王権の蝦夷・隼人政策」　大仙市教育委員会　　主事　熊谷明希氏

「鐙ヶ崎城跡からみた中世への胎動」　美郷町福祉保健課　　主査　亀井崇晃氏

「払田柵跡の調査研究の視座」　秋田県埋蔵文化財センター　副主幹　宇田川浩一

熊谷氏は古代王権がいかにして辺境の民とされた蝦夷と隼人に対する政策をとったのか文献史学の立場から議論し、その共通点と相違点を浮き彫りにした。

亀井氏は美郷町内の遺跡を概観しながら、町で近年調査を実施している鐙ヶ崎城跡の成果と課題を鮮明にし、同町域が払田柵跡と古代、そして中世にかけて重要な地域であることを指摘した。

宇田川は払田柵跡の45年にわたる調査成果に基づきながら、特に対蝦夷政策について軍事と馬の切り口から論じた。

各講演会とも盛況で、アンケート調査からも参加者の満足度の高いものとなった。

（５）あきた埋文考古学セミナー

第１回

「古代のタイムカプセル～片貝家ノ下遺跡が語ること～」

期　日：５月19日(土)

会　場：大館郷土博物館　１階：美術工芸展示室

参加者：35名

講　師：村上義直(秋田県埋蔵文化財センター副主幹)

講演では、片貝家ノ下遺跡が、西暦915年の十和田火山の大噴火に伴う火山泥流堆積物に埋もれた平安時代の集落と水田であることが紹介された。平成29年度にはレーダー探査が行われ、新たに得られた情報を写真や図面を用いて紹介した。講演に続き、第１回出張展示「古代のタイムカプセル～片貝家ノ下遺跡が語ること～」の展示解説も行い、さらに大館市教育委員会の馬庭和也氏が同市における発掘調査速報展の展示解説を行った。大館郷土博物館との共催で開催し、広報や準備、運営等で同館より協力をいただいた。

講演の様子

展示解説の様子

第２回

「世界遺産・平泉の景観を創出した源泉を求めて」

期　日：７月21日（土）

会　場：秋田県立図書館　３階多目的ホール

参加者：38名

講　師：高橋学(秋田県埋蔵文化財センター所長)

世界遺産「平泉」の関連資産である柳之御所遺跡の景観形成は、初代藤原清衡の母が清原氏と再婚し、出羽国内に移住したことを契機としていることや、米代川流域の古代集落と出羽国内の城柵との関わりについて説明した。講演に続き、出張展示「米代川流域の古代社会～集落・生業・墓と祭祀～」の展示解説を行い、展示資料から考えられる遺跡の特徴などについて解説した。展示解説終了後も講演内容や展示品についての質問が絶えなかった。県立図書館との共催により開催し、広報や準備、運営等で同館より協力をいただいた。

講演の様子

展示解説の様子

（6）あきた埋文出張展示

出張展示は、埋蔵文化財を活用した展示を当センター以外の施設でも行い、より広く県民に公開することによって地域の歴史や文化、埋蔵文化財に対する理解を深めていただくことを目的としている。関連機関と連携を図り、ニーズに応えた展示内容を構成して、県内５会場で開催した。

第１回

「古代のタイムカプセル～片貝家ノ下遺跡が語ること～」

会　期：４月28日(土)～６月24日(日)

会　場：大館郷土博物館　１階　美術工芸展示室

大館郷土博物館との共催事業として開催した。展示は平成27・28年度に行った片貝家ノ下遺跡の確認調査及び平成29年度に行ったレーダー探査について、写真パネルや図を用いて主な遺構の様子や遺物の出土状況を紹介するとともに、調査によって確認された埋没竪穴建物跡の実寸大写真と模型を展示した。会期中に同会場で第１回あきた埋文考古学セミナーを開催し、セミナー終了後に展示解説を行った。大館市周辺在住の参加者が大半を占め、郷土の古代史に対する関心の高さがうかがえた。期間中の来場者は776人で、大館郷土博物館には広報や運営、展示等で多大な協力をいただいた。

片貝家ノ下遺跡の展示状況

実寸大写真と竪穴建物模型の展示状況

第２回

「ほってわかった、払田柵跡45年」

会　期：４月29日(日)～６月22日(金)

会　場：秋田県立博物館　２階　ロビー

秋田県立博物館との共催により同館２階ロビーで開催した。払田柵跡調査事務所設立45年記念として、これまでの払田柵跡発掘調査で明らかになった成果について、「出土土器と年代」・「払田柵跡の役割」・「律令祭祀」の３テーマを設けて展示を行った。このほか、会期中に同館で第１回講演会「払田柵跡と秋田の古代世界」を開催し、講演後、展示解説を行い、数多くの来場者で賑わった。

展示解説の様子

展示状況

第３回

「米代川流域の古代社会～集落・生業・墓と祭祀～」

会　期：７月７日(土)～８月15日(水)

会　場：秋田県立図書館　２階　特別展示室

秋田県立図書館との共催事業として開催した。現在、米代川流域の鹿角地区、大館北秋地区、能代山本地区の古代遺跡は約570ある。そのうち、奈良時代以前の遺跡はほんの数例で、ほとんどは平安時代、それも９世紀後半以降の遺跡である。これらの遺跡の多くは、日本書紀を始めとした当時の史書に「蝦夷」、「俘囚」などと記されている人たちが残したものと考えられ、集落、生業、墓と祭祀のテーマから当時の人たちの生活や社会の一端を紹介した。会期中に同会場で第２回あきた埋文考古学セミナーを開催し、セミナー終了後に展示解説を行った。期間中の来場者は3,845人で、秋田県立図書館には広報、運営等で多大な協力をいただいた。

展示状況

片貝遺跡出土土器等の展示状況

第４回

「能代山本地域の縄文文化」

会期・会場：第１会場　能代市子ども館　１階ホール　　10月25日(木)～11月18日(日)

第２会場　能代市立能代図書館　ギャラリー　10月18日(木)～11月18日(日)

能代市教育委員会との共催事業として開催した。「能代山本地域の縄文文化」と題し、同地域の史跡である杉沢台遺跡(縄文時代前期後半～晩期後半)を中心に展示を行った。

第１会場の子ども館では、１階ホールにその出土品を展示するとともに、写真パネルで遺構の様子や遺物の出土状況を紹介し、遺跡の特徴や当時の暮らしなどについて解説した。第２会場の能代市立能代図書館では、ギャラリーに写真パネルと解説を展示した。このほか、会期中に子ども館で考古学体験教室(オープン・ラボ)を開催した。期間中の来場者はあわせて2,708人で、能代市教育委員会、能代市子ども館、能代市立能代図書館には広報や運営等で多大な協力をいただいた。

第１会場の展示状況

第２会場のパネル展示

第５回

「あきたの古代　－野代村の実像に迫る－」

会期：平成31年３月２日(土)～３月24日(日)

会場：能代市立能代図書館　１階　集会室前

能代市立能代図書館から申し込みがあった「あきた県庁出前講座」との連携企画として開催した。『日本書紀』斉明天皇４年(658)４月条に「齶田浄代二郡蝦夷」との記述がある。「齶田」は秋田、「浄代」は能代を指し、それぞれの地名の初見記事である。『続日本紀』宝亀２年(771)６月条には「出羽国賊地野代凌」として「野代」が登場する。その後、江戸時代に野代地方を震源とする２度の大地震(元禄７年[1694]と宝永元年[1704])を契機として“野に代わる”ことを嫌い“能く代わる”と読める「能代」に改名され、現在に至る。この展示では、あきたの古代、特に「野代村」に焦点をあて、先人たちが野代の地でどのような暮らしをしていたのか、考古学的に紹介した。

会期中の来場者は250人で、能代市立能代図書館には広報、運営等で多大な協力をいただいた。

「あきたの古代」の展示状況①（パネル）

「あきたの古代」の展示状況②（出土品）

（７）小学校への出張展示

「縄文時代の衣食住」

第１回　会期：５月８日(火)～５月15日(火)　　会場：横手市立植田小学校(児童数49人)

第２回　会期：５月15日(火)～５月22日(火)　　会場：横手市立睦合小学校(児童数85人)

学校からの要請を受け、出前授業後に体験用の貸出キット(実物)を展示した。プレイホールには狩と漁キット、図書室には土器資料キットをクイズ形式のキャプションと一緒に設置したところ早速他学年の児童や教職員も集まり興味を示していた。五感をはたらかせながら多くの情報を実物から感じ取り、埋蔵文化財に対する関心や理解を一層高められた。

狩と漁キットの展示状況

土器資料キットの展示状況

（8）古代発見！バスツアー

史跡や遺跡をバスで巡回し、郷土の歴史や文化財について理解を深めてもらうとともに、埋蔵文化財センターの活動を広く知ってもらおうという事業である。今年度は「めざせ世界遺産！大湯環状列石・伊勢堂岱遺跡探訪コース」として、秋田市発着で２回実施した。

新聞・チラシ・ホームページ等で広報し、各コースとも第２希望日まで応募できるようにした。想定の２倍の応募があったことから、バスを大型に変更した上で調整し、希望に応えることができた。

回	期日・参加人数	内　　容　・　コ　ー　ス
第１回 第２回	10月２日(火) 【参加者　43名】 10月５日(金) 【参加者　40名】	世界遺産への登録を目指している「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産である、県内の２史跡を推薦応援を目的に訪れた。 午前は、縄文時代後期の環状列石が４基発見されている史跡伊勢堂岱遺跡とその資料展示施設である伊勢堂岱縄文館を北秋田市教育委員会の職員の方に案内していただいた。午後には国内最大級の環状列石がある特別史跡大湯環状列石とその資料館である大湯ストーンサークル館を鹿角市教育委員会の職員の方に案内していただいた。第１回は世界遺産登録推薦書作成作業にたずさわっている県文化財保護室の新海和広氏にバスに同乗してもらい、登録へ向けてのお話をしていただいた。 ・秋田駅東口→伊勢堂岱遺跡縄文館(北秋田市)→道の駅大館能代空港→特別史跡大湯ストーンサークル館(鹿角市)→秋田駅東口 ※道の駅ふたついで帰路休憩。

参加者からは、「各所の滞在時間にゆとりがほしかった」という声もあったが、「２つの遺跡を比較しながら見学できたことが大変良かった」との感想もいただき、概ね好評であった。

伊勢堂岱遺跡の見学

大湯ストーンサークル館での展示解説

（9）払田柵跡普及イベント

①払田柵跡サタデーカフェ

第１回「考古学って何？」７月７日(土)
　　埋蔵文化財センター　宇田川浩一　参加者６名
第２回「文献史学って何？」９月１日(土)
　　大仙市教育委員会　熊谷明希氏　参加者８名
第３回「アーカイブズ～現代から古代まで～」10月13日(土)
　　大仙市総務部　蓮沼素子氏　参加者７名
第４回「払田柵跡って何？」11月10日(土)
　　払田柵跡調査事務所　高橋学　参加者13名
会　場：払田柵跡、大仙市払田柵跡総合案内所

サタデーカフェの様子

大仙市教育委員会共催のもと、払田柵跡復元東屋・大仙市払田柵跡総合案内所を会場に土曜日(午後２～３時)に開催した。くつろいだ雰囲気のもと講師の話題提供を元に参加者と各テーマについて学んだ。初めての試みであったが手応えを感じるものであった。

②払田柵跡で自然と歴史をしらべよう

期　日：第１回「自然をしらべる」７月21日(土)
　　第２回「史跡をしらべる」８月８日(水)
会　場：払田柵跡長森丘陵
参加者：第１回21名、第２回23名
講　師：第１回　酒井浩氏(わくわく科学工房)
　　第２回　吉川耕太郎(払田柵跡調査事務所)

植物観察の様子

近隣小学生とその保護者を対象に払田柵跡により親しみを持ってもらうために、第１回は自然観察会形式、第２回はクイズラリー形式で開催し、夏休みということもあって参加者から好評を得た。

③払田柵跡Deスケッチ

期　日：10月８日(月・祝)　　会場：払田柵跡
講　師：斉藤洋子氏(秋田県立博物館)
参加者：６名

払田柵跡をフィールドに、水彩絵の具などを使って各自オリジナルポストカードを作成した。当日は天気にも恵まれ心地よい中で参加者が思い思いにスケッチを楽しんだ。

スケッチの様子

（10）オープンラボ

①農業科学館まつり

期　日：７月８日(日)

会　場：農業科学館やすらぎ広場

縄文コースターづくり、塗り絵、縄文土器と狩猟セットの展示、弓矢体験等の活動を行った。

弓の柄と的を改良したところ子どもたちに好評であった。コースター作りや塗り絵などは小学生女子児童に人気であった。付き添いの大人に対しても縄文土器などの解説を行い、満足感のある催しとなった。参加者は213名であった。

弓矢体験をする小学生

②払田柵跡古代体験フェス２０１８

期　日：８月３日(金)

会　場：払田柵跡

小学生の夏休みに合わせ、大仙市教育委員会との連携事業として開催した。古代の生生活に触れる体験を通し、地域の歴史や現代の生活との違いについて学習することを目的に、払田柵跡で実施した。体験内容は木簡はがき・絵馬づくり、勾玉づくり、平安衣装着用、乗馬、南門登上、火起こし、弓矢体験、投壺などである。天候に恵まれ、小学生と保護者合わせて80名が集まり、博物館実習の大学生からサポートしてもらいながら古代の生活を体験していた。

火起こし体験をする小学生

③能代市子ども館考古学体験教室

期　日：第１回　10月27日(土)～28日(日)

　　第２回　11月10日(土)～11日(日)

会　場：能代市子ども館　１階　ホール（第４回出張展示第２会場）

第４回あきた埋文出張展示に合わせて開催した。埋蔵文化財についてのクイズなど考古学に関する体験をすることによって、考古学の世界に興味と関心をもってもらうとともに、郷土の歴史や文化に親しみ、愛着を深めることを目的に実施した。内容は、縄文時代の土器や土偶に描かれた文様をもとにしたコースターづくりやぬり絵、遺跡出土品の用途や現代の道具との関連を考えるクイズ「これなんだ？」である。子ども向けの体験メニューを行ったが、コースターづくりやクイズは大人でも楽しめるものであった。親子での参加が多かったが、出張展示を見に来て体験していく人もあり、４日間で363名の参加者があった。

④発掘調査報告会体験教室

毎年開催している秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会に合わせ、古代の生活に触れる体験をとおして地域の歴史や現代の生活との違いについて学習する目的で開催した。

期　日：３月９日(土)

会　場：県生涯学習センター　地下展示ホール

体験内容は縄文コースターづくり、縄目もようでクラフトにチャレンジ、これなんだ？土器・石器クイズなどである。各種体験に延べ147名が参加し、盛況のうちに終了した。

縄文コースターづくりの様子

これなんだ？土器・石器クイズの様子

(11) 共催・機関連携等による普及事業

①彩夏仙北２０１８

期　日：８月15日(水)

会　場：埋蔵文化財センター、払田柵跡

史跡の里づくり委員会事務局(大仙市役所仙北支所地域活性化推進室内)主催により、「彩夏仙北２０１８」が払田柵跡にて開催された。今年度は初めて共催として加わり、玄関ホールや特別展示室に平安衣装着衣体験コーナーや視聴覚資料を鑑賞できるコーナーを設置し、払田柵跡出土品と合わせて紹介しながら、イベント参加者へ史跡に対する理解を深めてもらった。特に、平安衣装着衣体験は好評でほとんどの来館者が身にまとい、写真撮影を行っていた。

平安衣装着衣体験コーナーの設置

②土器に生ける秋の草花展

期　日：10月６日(土)～10月21日(日)

会　場：農業科学館ホワイエ

今年度は池内遺跡から出土した縄文土器10点を使用した。それらを花器に見立てて、東大曲小学校の親子がリンドウ、シュウメイギク、ホトトギス、ガマズミなど秋を感じさせる草花を生けて展示した。

展示状況

③あきたスマートカレッジ

県生涯学習センターとの機関連携事業である。今年度は、県生涯学習センターを会場に「秋田の地域史」の中の１講座を行った。秋田市を中心に多数の受講者を得ることができた。

期　日	講演テーマ・参加人数	講　師
６月16日(土)	仙北地域の歴史－払田柵ができる前／できた後－ 【参加者　114名】	中央調査班 副主幹　宇田川浩一

④あきた県庁出前講座

あきた県庁出前講座は、県職員が県民の要請に応じて講師として出向き、さまざまな情報を提供して県事業等への理解を図ることを目的としている。埋蔵文化財センターも特長をいかした講座を用意している。

期日/参加人数	講座名/内容/講座番号	講師	要請団体	会　場
５月23日(水) 【110名】	出土品から学ぶ秋田の歴史 片貝家ノ下遺跡　(190)	副主幹 村上義直	大館市老壮大学	大館市立中央公民館
７月31日(火) 【36名】	考古学をしよう 縄文体験　(192)	学芸主事 鈴木裕 文化財主査 小徳晶	湯沢市教育委員会生涯学習課	ジオスタ☆ゆざわ
８月１日(水) 【13名】	考古学をしよう 縄文体験　(192)	学芸主事 鈴木裕	横手市まちづくり推進部	横手市立さかえ館
８月２日(木) 【12名】	考古学をしよう 土器・石器観察　(192)	学芸主事 工藤伸也	秋田市立桜小学校	同左
８月22日(水) 【21名】	考古学をしよう 縄文体験　(192)	学芸主事 鈴木裕	横手市まちづくり推進部	横手市立あさくら館
９月26日(水) 【12名】	出土品から学ぶ秋田の歴史 石器と石棒　(190)	文化財主査 加藤朋夏	鹿角市大湯ストーンサークル館	同左
9月29日(土) 【21名】	リアルタイム発掘調査最前線 払田柵跡と雄勝城（191）	主任文化財専門員 五十嵐一治	横手郷土史研究会	横手市立あさくら館
12月26日(水) 【21名】	考古学をしよう 縄文体験　(192)	学芸主事 鈴木裕 学芸主事 工藤伸也	横手市まちづくり推進部	十文字西地区交流センター
12月27日(木) 【29名】	考古学をしよう 縄文体験　(192)	学芸主事 鈴木裕 文化財主査 小徳晶	横手市まちづくり推進部	横手市立Y^2ぷらざ
１月８日(火) 【26名】	考古学をしよう 縄文体験　(192)	学芸主事 鈴木裕 文化財主査 小徳晶	横手市まちづくり推進部	横手市立あさくら館
１月10日(木) 【26名】	考古学をしよう 縄文体験　(192)	学芸主事 鈴木裕 主任学芸主事 袴田道郎	横手市まちづくり推進部	横手市立旭ふれあい館
３月17日(日) 【71名】	出土品から学ぶ秋田の歴史 あきたの古代　(190)	所長 高橋学	能代市立能代図書館	同左

(12) 所蔵資料・古代体験キット・ビデオの貸し出し

所蔵資料・古代体験キット・ビデオの貸し出し実績

年　　度	28年度	29年度	30年度
所蔵資料貸出数	22件	38件	27件
キット貸出数	9件	4件	5件
ビデオ貸出数	0件	0件	0件
火起こし貸出数	3件	1件	1件

※所蔵資料貸出内訳

資料種別	使用目的（複数利用含む）		
	展示公開	書籍等掲載	研究ほか
遺跡出土品	8件	0件	1件
フィルム写真データ	4件	18件	0件
デジタルデータ	0件	0件	0件
その他	0件	0件	0件

(13) センターの公開と展示

見学者によりよく身近に埋蔵文化財を理解していただくために「いつでもギャラリートーク」を行っている。これは、平日の開館時間に来所された見学者に、要望に応じて専門職員がいつでも展示品の解説を行うというものである。オープンスペースとして実際の遺物に触れていただき、展示品を「見る」だけでなく、古の息吹を直に「感じて」いただけるコーナーを設けている。また、秋田県内における縄文時代の出土品が見学できる施設や今年度発掘調査が行われている所を大型マップに掲示し、県内の遺物めぐりを提案している。今年度は、常設展示内に速報コーナーを設置し、北海道産のアオトラ石の磨製石斧を新たに展示した。クイズ形式の子ども向け解説シートを新設したり、各遺跡をわかりやすくするためにキャッチコピーをつけるなど展示を充実させた。また、博物館実習生の研修として「古代の祈りと呪い」と題し展示コーナーを設け、払田柵跡の展示を充実させた。

	開館時間	見学可能箇所　※は職員の案内によって可能
平日	9:00～16:00	特別展示室・第1収蔵庫(※)・整理室(※)・中央調査班展示室
土・日・祝日	9:00～16:00	特別展示室

（休館日：1月1日～3日、成人の日、建国記念の日、春分の日、12月28日～31日）

(14) 図書整理・図書一般公開

当センターで発刊した報告書等や他県などから送付された報告書等を登録、配架し、図書の利用環境を整備するとともに、全国遺跡総覧等でのデジタル公開を行った。

○全国遺跡総覧への一般公開

・払田柵跡第151次調査　・町村Ⅱ遺跡　・片貝遺跡　・遺跡詳細分布調査報告書

○秋田県立図書館「デジタルアーカイブ」への公開

2019年１月９日までリニューアルのためシステム工事中であったので、今後公開する予定である。

・平成27年度企画展パンフレット「横手盆地の三万年」

・平成28年度企画展パンフレット「孵田の原風景」

・平成29年度企画展パンフレット「米代川流域の古代社会」

（15）講演・研究論文等

平成30年５月

〈論文〉赤星純平「秋田市河原崎遺跡における石器製作技術と石材利用について」『駒澤考古43号』駒澤大学考古学研究室

〈動向〉加藤朋夏「各都道府県の動向　秋田県」『日本考古学年報69』　日本考古学協会

〈発表〉吉川耕太郎「石斧のある世界」『秋田県文化財保護協会能代支部総会・研修会』　秋田県文化財保護協会能代支部

平成30年６月

〈発表・資料〉高橋学「「荒川太郎」と美郷町～町域の景観はいつ頃形成されたのか～」『後三年合戦みさとプロジェクト講演会資料』　美郷町教育委員会

〈発表〉小山美紀「東北諸窯」『陶磁器を学ぶ会in浪岡城跡』　東北中世考古学の会

〈発表〉吉川耕太郎「先史人類の黒曜石利用」『東北ジオパーク学術研究会議』　東北ジオパーク学術研究会

平成30年９月

〈発表・資料〉高橋学「「雄勝城」を求めて－古代出羽国における雄物川町域の担った役割－」『雄物川町文化財保護協会創立60周年記念講演会資料』　雄物川町文化財保護協会

平成30年11月

〈発表〉赤星純平「旧石器時代の石斧」『平成30年度秋田考古学協会秋季研究会　氷河時代を生き抜いた狩猟民－秋田の旧石器時代－』　秋田考古学協会

平成30年12月

〈報告〉赤星純平「日本海域を南下する黒曜石」『ナイフ・石鏃・磨製石斧－石材資源とその流通－』明治大学黒耀石研究センター

〈論文〉利部修「近世Ｘ形文の変容」『秋田考古学62』　秋田考古学協会

〈発表〉吉川耕太郎「払田柵跡の新発見」『払田柵跡関連遺跡調査報告会』　造山の歴史を語る会

平成31年２月

〈論文〉高橋学「竪穴・掘立柱併用建物の成立と展開」『北奥羽の古代社会』　高志書院

〈発表資料〉高橋学「櫓と堀を考える－原添下区域南東部の遺構群が語ること－」『平成30年度国指定史跡鳥海柵跡シンポジウム資料』　金ヶ崎町教育委員会事務局

〈発表資料〉高橋学「払田柵跡の区画施設の構造」『平成30年度後三年合戦シンポジウム資料』横手市教育委員会

〈発表〉吉川耕太郎「払田柵跡－平成30年度の調査概要－」『第45回古代城柵官衙遺跡検討会－資料集－』　古代城柵官衛遺跡検討会

6　運営協議会

【第１回】平成30年６月14日(木)

委　員：小松正夫委員(委員長)、相場勝也委員、伊藤雅己委員、瀬田川仁委員、
竹村尚人委員、高橋正規委員、渡部育子委員、伊藤茂昭委員

事務局：高橋所長、渡部副所長、半田総務班長(進行)、五十嵐調査班長、磯村中央調査班長、
袴田資料管理活用班長、小德文化財主査(記録)

案　件：（1）平成29年度事業報告
（2）平成30年度事業計画
（3）あきた埋文利用拡大についての提言

会議冒頭の所長あいさつ、小松委員長あいさつに引き続き、委員長の司会で協議が行われた。各委員からの主な意見は次のとおりである。

提言

◎校長会や社会科研究会などでセカンドスクールについて周知していくことが大切だ。

◎集客に関しては、最近の観光地に見られるようなストーリー付けをすることが重要だ。遺跡などを素材に一般の人に訴えるストーリーづくりができれば観光に結びつくのではないか。

◎４、５月のセカンドスクール利用が難しい場合、縄文時代だけでなく、鎌倉時代などその後の学習も含め、６・７月頃にふりかえりという形で出前授業を利用するという発想もできる。

◎毎年11月末頃にセカンドスクールの案内が学校に配布されるが、すぐに次年度の計画が立てられるわけではない。出前授業に縄文時代から中世ころまでの長いスパンのプログラムがあれば、ある程度学習が進み、時間的にも余裕ができた時に利用できると思う。

◎キャッチコピーの掲示にインパクトがあり効果的だ。セカンドスクールの案内や学習教材にキャッチコピーを付けたものがあれば、教員の利用意欲が高まる。

◎払田柵跡、埋蔵文化財センターの調査・研究は全国的にも注目されているが、考古学は学術研究に費用がかかる。そこで文科省の科学研究費を得られる研究施設として歴史館を設置してはどうか。

◎観光立国を目指す国の方針にあわせ、観光プランの中に歴史館を組み込み、解説に英語表記を加えた特色ある古代の展示ができれば、大曲の花火の知名度を生かし、世界中から集客が期待できる。

◎観光面では他との連携が大切である。大仙市に花火資料館ができ、通年利用になった旧池田氏庭園などと連携すれば一つの周遊コースができるのではないか。

◎地域貢献の一環としてスペースを提供している商業施設などもＰＲに利用できると思う。

◎子どもの頃にセンターに来た体験により考古学や埋蔵文化財の方面に進んだ専門家や先生方もいるため、センターやその行事に子どもを呼び込むことは重要である。

要望

◎埋蔵文化財センターの発展が地域の発展となってほしい。払田柵跡関係の催しの他に、道路沿いに何かＰＲするような目立つものがあれば、地域振興や活性化にもつながる。

◎払田柵跡の冬まつりも「蝦夷ほたる(かいほたる)」(ミニかまくら)などとても魅力的なので、夏まつりと併せて利用し、ＰＲしてほしい。

◎埋蔵文化財センターのＰＲとして、「まいぶん」を想起させるような愛称や表現の工夫がほしい。

◎体験的な内容を加え、親子が興味を持ちそうな縄文の料理体験のようなものもあればよい。

その他

◎テレビのニュースや新聞、各施設のポスター・チラシでセンターのことをよく目にするようになった。多くの事業を展開する中で、特に活用事業の充実が図られているように感じる。

◎センターでは、多くの充実した事業を実施していると思う。展示室などを見ても、少しずつ見て楽しめる雰囲気になってきていると感じる。

◎様々な年齢やそれぞれの興味・関心をみながら工夫していることがうかがわれ、利用者の増加につながっていると思う。

◎昨年度と比べ、センターの展示室の印象が変わり、非常に明るく見やすくなった気がする。

◎多くの事業と、参加者の数に驚いた。子供たちの歴史学習には欠かせない場なので今後もよろしくお願いしたい。

◎地域の学校としてセンターの利用を検討したが、４・５月は時間的、日程的に厳しかった。教育課程の中で工夫しながら、他の時期での利用も考えている。

◎移動のためのバスの確保に苦労しているので、出前講座の充実は非常にありがたい。

◎足も時間もないという場合、出前授業などは助かると思う。

◎植田小、睦合小に出前授業と貸し出しキットの展示をしていただき、ありがたく思う。子どもたちの関心が高く、自分で資料を調べてみようとする子どももいた。

◎今年の払田柵跡の発掘調査では、昨年漆紙文書が発見され、「目(さかん)」の存在が分かった。都から偉い人が来ているということなので、それに関連する居館のような建物の存在も予想される。後藤宙外が作製した地図(昭和５年)の中で、池田氏別邸のあたりにもそれらしき箇所がうかがわれるので、今後の発見に期待したい。

【第２回】平成31年２月５日(火)

委　員：小松正夫委員長、佐藤厚子副委員長、相場勝也委員、伊藤雅己委員、瀬田川仁委員、
　　竹村尚人委員、渡部育子委員、伊藤茂昭委員

事務局：高橋所長、渡部副所長、半田総務班長(進行)、五十嵐調査班長、袴田資料管理活用班長、
　　工藤学芸主事(記録)

案　件：（１）平成30年度事業報告
　　（２）平成31年度事業計画(案)
　　（３）あきた埋文利用拡大について

会議冒頭の所長あいさつ、小松委員長あいさつに引き続き、委員長の司会で協議が行われた。各委員からの主な意見は次のとおりである。

提言

◎センターのレプリカや模型はとても素晴らしいため、キーホルダー等にしてガチャガチャで販売してはどうか。無理なら、大湯ストーンサークル館、伊勢堂岱縄文館、県立博物館などを廻りスタンプラリーのようにして、ガチャを引く権利を特典とするのはどうか。小学生が非常に喜ぶと思う。

◎キーホルダーやミュージアムグッズは第３セクターで行えばできるはず。

◎今後さらに観光面との連携を図り利用拡大を目指すのが望ましい。ＪＲ大曲駅の東西をつなぐ連絡通路の展示スペースを活用してみてはどうか。
◎センターの展示室の展示替えの際には「ＮＥＷ」などの表記があればいい。
◎新学習指導要領では、博物館や資料館などの活用と、地域及び遺跡や文化財などについての調査活動を取り入れることが明示されている。センターのプログラムを積極的に売り込むチャンスだと思う。
◎昨年本校では隣接する小学校と連携して１週間ずつ出張展示をしてもらい、子どもたちの反応が良かった。地域の学校で連携を図り、週ごとに巡回することで面的なつながりや効率良い情報発信ができるのではないだろうか。各市等の教育研究会と連携し、総会などで広報チラシを配布してはどうか。
◎学校への出張展示は地域の教育研究会を通して年間計画を作成し、巡回するようにしてはどうか。
◎横手市では公民館単位で長期休みに子どもたちの受け入れを積極的に行っているが、プログラム探しに苦慮している。ほかの市町村でもニーズがあると思うので働きかけることで広がりが望める。
◎多賀城跡(東北歴史博物館)、伊治城(築館町出土文化財管理センター)、胆沢城(奥州市埋蔵文化財調査センター)、徳丹城(矢巾町歴史民俗資料館)、城輪柵跡(酒田市立資料館)、三内丸山遺跡、是川縄文館、御所野縄文博物館、秋田城跡(秋田城跡歴史資料館)などは展示や体験学習室が充実している。埋蔵文化財センターと大仙市の連携により、このような博物館(展示学習施設)ができればいい。
◎子どもが興味をもつ展示を目指してほしいと願っていたが、今の展示は分かり易く理解が深まるものになっている。さらにイラストも活用して分かりやすさをポイントにしてはどうか。

要望

◎事業のＰＲが大事であり、メディアを通して取り組みやイベントをどんどん紹介していくべきである。地元仙北地域とのコラボで事業を展開し、地域の活性化に協力してほしい。
◎多くの博物館で、マニアックな表現が目立つ中、センター展示室のキャッチコピーは良い。このような事例はあまりないので、大きな施設に負けないように、今後もひきつける展示を心がけてほしい。
◎彩夏仙北２０１８の平安衣装着衣体験が好評であったとのことだが、2010年の平城宮大極殿の復元でも有料にもかかわらず若者が列をなし着衣体験や写真撮影を行っていた。県内で古代衣装体験ができるのは、秋田城跡と払田柵跡の２か所しかないが、払田の広い空間で体験してほしい。
◎最近は緊急発掘調査の事業が少なくなっていると思うので、埋文センターの今後が気になる。人員削減などが予想されるが、普及事業を一層充実させ、センターの必要性を示してほしい。
◎世界遺産登録に関わる県北の２遺跡のほかにも、県内には縄文時代の生活の跡はあるので、県内の考古学を総括する意味でも、「秋田県立歴史館(仮称)」の設立について、地域自治体と連携し県に働きかけてほしい。

その他

◎運営協議会の提言等が運営に生かされており、ＰＤＣＡサイクルが非常にスピーディーだと感じる。
◎外に出ていく事業が増え、展示室の環境整備が進み、分かりやすい展示とあわせ充実している。
◎北海道・北東北の縄文遺跡群が世界遺産登録されれば、基礎研究が重要になってくる。北海道は北

海道大学考古学教室、青森県は弘前大学人文学部などが考古学の中心となるが、秋田では埋蔵文化財センターが要になる。縄文展等でファンが増えることは望ましいが、様々な受け止め方や解釈が発生するため、地道な研究を行い学術的な発信を常に行わなければいけない。

Ⅴ　平成30年度研修事業

1　研修受け入れ

（1）職場体験

校種	実施日	研修者
小学生	11月28日(水)	大仙市立東大曲小学校６年生５名
高校生	７月25日(水) ～27日(金) １月８日(火) ～10日(木)	県立大曲工業高等学校２年生４名 〃　　２年生３名
大学生	７月３日(火) ～７月12日(木) ７月30日(月) ～８月３日(金)	日本大学文理学部４年生１名 山形県立米沢女子短期大学２年生２名

2　職員研修

（1）職員技術研修会

第１回は、７月27日(金)に払田柵跡調査事務所の協力のもと、史跡払田柵跡を会場として、「学術調査の方法と応用」及び「測量の応用」をテーマに実施した。

史跡払田柵跡の調査は、第９次五年計画の５年次、第152次調査を数える。事務所では第８次五年計画以降、長森南側に広がる沖積地の調査を計画的に進めており、今年度は長森丘陵裾部に広がる盛土整地地業及び東西に延びる溝跡の範囲及び性格の解明を目的としている。

研修には、当センター調査担当職員15名、県教育庁生涯学習課文化財保護室職員１名のほか、県内市町村の埋蔵文化財担当者５名が参加した。

払田柵跡調査事務所の吉川耕太郎副主幹(兼)調査班長から調査成果の概略について説明の後、沖積地における自然堆積層及び人為的な盛土整地層の観察や、その解釈等について議論が行われた。その後４班に分かれ、第152次調査のトレンチ調査位置について平板を用いた測量実習を実施し、確認調査等において簡便に位置を記録できる平板の特性や誤差等について実地研修を行った。

なお、平成30年６月より継続して久保田城跡の発掘調査を実施中であるが、現場は発掘調査と建物上屋の解体工事とが並行しており、発掘調査現場を会場とした現地研修は、安全確保の面から困難と判断し、２回目の職員技術研修会は実施しないこととした。

（2）所内研修会

調査担当職員を主な対象とした所内の研修会を５回開催した。

第１回は４月26日(木)に、株式会社三森印刷を会場に研修を行った。当センターで毎年刊行している発掘調査報告書に関連し、デジタル入稿が主流となりつつある最新の印刷技術について、受注実績のある印刷所を訪問し、入稿から編集・製版・印刷・製本に係る工程について、実際に使用する機械を実見しながら研修した。また入稿に適した素材の規格・形式や、仕上がりを左右する要素等についてもそれぞれの担当者と意見交換することができ、今後の報告書執筆要項改定にも反映させることと

した。

第２回は４月26日(木)に、県立博物館の斉藤洋子学芸主事を講師に招き、県立博物館の企画展「植物を編む」に伴い研究を進めた暮らしの中の編組品について、研修を実施した。

縄文時代以降、時代に沿った編組品の変化や、現代に至る国内での地域分布等、様々な視点からの研究成果について、豊富な写真や実物資料を目前に研修した。

第３回は５月９日(水)に、今年度実施する久保田城跡の調査にさきがけ、近世陶磁器の種類や編年等について、研修を実施した。研修には、当センター職員19名、県教育庁生涯学習課文化財保護室職員２名のほか、県内市町村の埋蔵文化財担当者５名が参加した。

近年、秋田市街地における再開発等に伴い、久保田城下町の発掘調査事例が増加しつつある。今回は、久保田城跡のほか、藩校明徳館跡(秋田中央道路建設)、東根小屋町遺跡(明徳館ビル建設)、古川堀反町遺跡(秋田中央警察署建設)出土の陶磁器を産地や種別・時系列に沿って再整理し、それぞれの特徴や分類のポイント等について研修した。

第４回は５月22日(火)に、平成27年から９年計画で半解体修理が進む、秋田市泉地内の重要文化財天徳寺を訪れ、解体中の天徳寺本堂・書院を見学しながら、近世建造物について研修した。

修理の設計監理を行っている文化財建造物保存技術協会の伊藤誠所長から、解体により明らかになった事実や建物の特徴、建築材の組み方等について説明を受け、質疑応答も行った。また、久保田城跡の発掘調査の進捗に合わせた関連情報の提供も依頼し、有意義な見学となった。

続いて名勝旧秋田藩主佐竹氏別邸(如斯亭)庭園を訪れ、庭園遺構、母屋及び茶室のつくり等について研修した。その後、一つ森公園内に移築された武家屋敷である重要文化財旧黒澤家住宅を訪れ、秋田市中通から移築された近世武家住宅の附属屋を含めた宅地内の構成について、建物の詳細を実見しながら研修した。

第５回は８月10日(金)に、中央調査班を会場に国際教養大学の根岸洋准教授が土器に残された種子圧痕について資料調査を行う際、レプリカ法による種子圧痕のサンプリングに協力するとともにその実際について研修した。

そのほか、近年発掘調査に本格導入が図られているデジタル一眼レフカメラによる記録写真撮影に伴い、データ処理の方法及び最終的な収蔵に係る現像処理等について、従来の整理方法を見直し、調査員が共通理解を図れるよう、５月10日(木)に調査班、18日(金)に中央調査班にて、その作業の実際についての研修も行った。

今後も機会を得て様々な分野について研修し、職員の知識の幅を広げるとともに柔軟な思考への一助としたい。

（３）防災・避難訓練、交通安全講話

実施日：平成30年４月25日、11月29日(交通安全講話／本所)

実施日：平成30年５月23日(防災・避難訓練／本所)

実施日：平成30年５月29日、平成31年１月23日(交通安全講話／中央調査班)

Ⅵ　職員名簿

職　　名	氏　　名
所長	髙　橋　　学
副所長	渡　部　　均

総務班

副主幹(兼)班長	半　田　武　伸
主査	武　藤　　靖
主事	渡　辺　　昂

調査班

主任文化財専門員(兼)班長	五十嵐　一　治
(兼)副主幹(本務　払田柵跡調査事務所)	吉　川　耕太郎
文化財主査	加　藤　朋　夏
文化財主事	巴　　亜　子
文化財主事	赤　星　純　平
文化財主事	小　山　美　紀
文化財主事(払田柵跡調査事務所兼務)	安　田　　創
文化財主事	森　谷　康　平

資料管理活用班

主任学芸主事(兼)班長	袴　田　道　郎
学芸主事	鈴　木　　裕
学芸主事	工　藤　伸　也
文化財主査	小　徳　　晶

中央調査班

主任文化財専門員(兼)班長	磯　村　　亨
副主幹	大　坂　真　弓
副主幹	宇田川　浩　一
副主幹	村　上　義　直
学芸主事	武　内　真　之
学芸主事	山　村　　剛
文化財主査	利　部　　修
文化財主査	山　田　祐　子
文化財主事	冨　樫　那　美
文化財主事	乙　戸　　崇
非常勤職員	泉　　明

秋田県埋蔵文化財センター年報37
（平成30年度）
発　行　令和元年12月
秋田県埋蔵文化財センター
〒014-0802　大仙市払田字牛嶋20番地
電　話　（0187）69-3331
ＦＡＸ　（0187）69-3330
ＵＲＬ　http://www.pref.akita.jp/gakusyu/maibun_hp/index2.htm